

長浜

まちづくり通信

No. 16

令和元年度

長浜まちづくり推進市民会議

最終号



大いに賑った 「こうち南フェス 2019」



十一月三日 長浜・御畳瀬・浦戸地域が一体となり三地域でイベントを開催。各地とも沢山の来客で溢れ、盛況裏に終えることができ、高知南部地域活性化への仕組み作りの基盤が見え、今後の活性化への取組に弾みを与えて頂きました。

当日は各地でも多くのイベントが同時開催されており、関係者間では心配していましたが、幕を開けると杞憂で続々と押し掛けて見られる来場者に胸を撫でおろしました。長宗我部銅像広場を本部に、多くのボランティアさんにも手伝って頂き、三地域循環シャトルバス・当地では珍しいトウクトウク・御畳瀬と浦戸間を結ぶ遊覧観光船は、次々と乗客が押し寄せ、手際よく事故もなく整理されたボランティアさんに感謝申し上げます。

<内容>

- 大いに賑った
「こうち南フェス 2019」 …P.1
- 長浜まちづくり
推進市民会議のあゆみ …P.2
- 南海中学校区一斉津波避難訓練…P.3
- 地震に備える取組 …P.3
- ふれあいセンターだより …P.4
- 長浜まちづくり推進市民会議 …P.4



長浜会場では、若宮八幡宮参道を五〇店舗に余る「元親こじゅんと楽市」で両脇は埋められ、隣のイベント広場では南海中の吹奏楽の演奏に始まり、フラダンスそしてよさこい踊りを三チームが競演し盛り上がっていました。

御畳瀬会場では、漁協を会場に第六回となる「みませ祭」が開催され、名物の干物・新鮮な活漁・つみれ汁…と、日頃は味わえない海辺の風景の中で潮風を受け、海の幸を満喫しよさこい演舞と太鼓の演奏等に満足感が溢れている会場の模様でした。

浦戸会場では、旧浦戸小跡地広場で「うらら音楽祭」と銘打って、美しい浦戸湾をバックにしたステージ上で、地元の楽団の他高知ビックバンド等、聴き応えのある生演奏に来場者も酔いしれ、明日への活力を一杯に浴び会場を沸かせていました。

これらを企画しお世話頂きました高知市職員の皆様には感謝を申し上げます、今後ともご支援願



えますことを申し添え、感想を述べさせていた
だきました。
(内田 俊彦)

長浜まちづくり推進市民会議のあゆみ

長浜まちづくり推進市民会議は、平成10年4月の発足以来約20年間、「歴史の音が聞こえる心ふれあう元気なまち」を将来像とした『長浜コミュニティ計画』の推進のために、様々な取組を行ってきましたが、長浜・御豊瀬連携協議会への承継をもっての発展的解散を予定しています。

これまでの経緯



平成6年11月

長浜コミュニティ計画策定市民会議が発足

平成8年1月

長浜コミュニティ計画(案)を策定

平成9年3月

長浜コミュニティ計画(案)をもとに

長浜コミュニティ計画(行政計画)を策定

平成10年4月

長浜まちづくり推進市民会議が発足

←
コミュニティに基づく各種事業の推進に取り組む



花と緑のあふれる歴史と文化にあふれるまち

子どもや老人が安心して生活できる便利なまち

人の心がふれあう元気なまち

歴史の音が聞こえる

心ふれあう元気なまち



長浜史跡巡りマップ、史跡説明板・総合案内板・道しるべ 8月8日ロードボランティア 元親こじやんと楽市



地域の活性化に関する検討

歴史探訪まちあるき

長浜地区の防災啓発活動

長浜まちづくり通信(概ね年1回)



長浜まちづくり推進市民会議の
主な活動(過去の活動を含む)

長浜・御豊瀬連携協議会への加入 他

当会が発足したのが平成10年4月で、まもなく22年になる。ところでこの会は或る日ボカッと誕生したのではなく、更に逆のぼること3年数か月、長浜コミュニティ計画策定市民会議というものを立ち上げて準備をし、できたというご念の入れようで、私はその当時のメンバーであった。

そういうことで、初年度から「歴史文化」「安心」「元気」を通年施策三本柱とし、順調に事を運んできたのである。

主とした事業を列挙すると、防災フォーラム、フェア、講演会の開催、史跡探訪、史跡マップ作成、同案内板の設置、歴史文化講演会の開催、こじやんと楽市への参画等々である。

中でも白眉といつてよいのは、長浜に生活してきた人々の愛用、所蔵してきた書画・古民具・セピア色の写真・古文書等を一堂に集め展示するという長浜歴史展の開催で、九日間という長丁場にもかかわらず、多くの見学者が訪れ、一大社交場となり、余韻なお漂わせつつ終ることができたのである。

さて、この会も発展的解消ということであるが、引き継ぐことになるという新しい会でもこの勢を受け継いで行くことを願って止まないものである。(森田 康彦)



南海中学校

Nankai Survival Project (南海サバイバルプロジェクト)
南海中学校区一斉津波避難訓練



11月4日(月)の南海中学校区一斉津波避難訓練へのご協力ありがとうございました。当日は、市役所や市議会、地域の自主防災組織、消防団、警察署の皆様のご協力をいただき、校区をあげて津波避難訓練を行うことができました。それでは、避難訓練の結果報告をさせていただきます。

南海中学校区一斉津波避難訓練参加者

(単位:人)

年代	0~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~89	90~	その他	計
合計	41	190	8	22	40	63	132	218	78	10	59	861

今年度の参加者は861人で、昨年度と比較すると全体で80人ほど増えています。しかし、取り組みが始まった26年度の参加者数1,047人には大きく届いていません。

地区別に見ると、御豊瀬地区は、林田邸 裏山や正八幡宮への避難者の数が大きく増え、全体で15人ほど参加者が増えています。梶ヶ浦地区は、昨年度から中央ルートに統一しており、5人ほど参加者が増えています。浦戸地区は、特にクレセントゴルフ場東部に多くの人が集まり、20人ほど参加が増えています。長浜北岸地区は、特にせとメガソーラー西入口荒川電気テクニカルセンターへの避難者が大きく増えましたが、北岸全体では10人ほど参加者が減っています。長浜南岸地区は、つむぐ(特別養護老人ホーム)への避難者の数が大きく増え、南岸全体で50人ほど増えています。

年齢別に見ると、60歳以上の方の参加は多いのですが、保育園児・小学生・中学生の親の世代の参加者が少なく、その影響もあって、0歳~19歳の参加人数も中学生を除くと少なくなっています。全体的には、今年度の訓練結果からはそのような特徴が出ていますが、「もしも」の時を想定した場合、今回避難した場所以外にも訓練する必要があると思います。

参加者には、高齢者が多くいます。実際に津波がきたときに、率先して動ける若い人が参加し、助け合って避難しなくてはいけないので、みんなの防災意識を高める活動を行っていききたいと思います。(高知市立南海中学校 NSP 実行委員会)



長浜小学校

地震に備える取組



南海トラフの巨大地震について、高知市のハザードマップで本校付近は震度6強が予想されており、地震発生後40分前後で津波到達、津波の高さ予想1~2m程度とされています。本校は古い校舎ですが、南舎を平成17年、北舎を平成21年に耐震工事を行っており、津波避難ビルとして北舎には外部から屋上へつながる非常階段も完成しています。

万一の事態に備え、本校でも授業中や休み時間、掃除の時間など児童の状態が様々な場面を想定して地震や津波に対する避難訓練を行っています。今年度は、その場で揺れから身を守る姿勢を取るだけの簡単なシェイクアウト訓練を6回、津波避難訓練4回を計画的に実施しています。また、小学校では、各学年年間5時間以上の防災学習をすることが義務付けられています。本校でも教室での防災学習だけでなく、地域避難場所の確認、着水泳、心肺蘇生法、起震車体験、校内防災設備見学等を学年の発達段階に応じて実施しています。1月14日には防災参観日を実施し、保護者や地域に学習を公開しました。

あつては困るが、必ず来る巨大地震に対して、自分の命を自分で守れる子どもを育てていきたいと思っています。

(長浜小学校)



シェイクアウト訓練(机の下へ)



津波避難訓練(4階へ素早く避難)

ふれあいセンターだより

二年に一度実施しています長浜ふれあいセンター運営委員会「日帰り研修視察」が昨年11月8日(金)に実施されました。

天候にも恵まれ、久武会長や森澤婦人部長をはじめとした15人が参加し、貸し切りバスで岡山県備前市に出発しました。

まず最初に、世界最古の庶民のための公立学校と言われている「特別史跡・閑谷学校」を見学しました。岡山藩主池田光政公によって江戸時代前期に創建されたもので、日本遺産第1号にも認定されています。

次に、備前焼ギャラリー「山麓窯」を訪問し、備前焼の壺や花瓶、湯呑茶碗などを見て回りました。備前焼の特徴としては、一つとして同じ色、同じ模様のものはないとのことでした。

昼食時間を1時間程度とった後、倉敷市の「美観地区」に寄って、昔ながらの風情のある街並みを散策しました。

参加された皆さんから「久々にリフレッシュができて良かった!」「有意義な楽しい研修であった!」というお声を頂き「日帰り研修視察」を終えました。



綺麗な紅葉が見える観光スポットでしたが、温暖化の影響で紅葉が遅れていて残念でした

長浜まちづくり推進市民会議

(発行時：会員23名)



たくさんのご支援・ご協力ありがとうございます!
今後も長浜のまちづくり活動に取り組んで参りますので、
今後ともよろしくお願ひします!

企画・編集

長浜まちづくり推進市民会議

発行人

大久保 千堯

連絡先

高知市地域コミュニティ推進課

TEL: 823-9080

発行

令和2年2月

— 編集後記 —
昨年のラグビーW杯の盛り上がり続き、今夏のオリンピックへの期待など、昨今、日本の国際化をよく耳にします。しかし、国を成しているのはそれぞれの地域に住む人々の暮らしと想いでしょう。昨年南部地域で行われた3地区連携イベントも講評でした。本紙も今号で最終となりますが、新しい感覚で地元の元気の素を掘り起こし、発信してくれる人が必ずいると期待しています。永年にわたるご愛読有り難うございました (大久保 千堯)